



Ma~ri~s Corner マ〜リ〜の物がたり〜

マリコ・クック
Mariko Cook
2012年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配属される。
米国インディアナ州出身
原文・和訳:マリコ・クック

交流の場

国際交流員の事業で、市内の幼稚園と児童センターを回り、アメリカ文化の紹介や簡単な英語を教える「マリコと遊ぼう!」というものがあります。プログラムは季節によって違い、年明けは正月遊びをしたり、夏はセミ取りにも参加したり、そして秋にはハロウィーンやクリスマスの紹介をしています。

初めて幼稚園でこの事業をやったとき、「外見では、私が日本語も話せるハーフだということがわからないだろうから、びっくりしないかな。」と、ちょっと心配した覚えがあります。しかし、実際幼稚園に行ってみると、4、5歳の子どもたちが興味津々に笑顔で「マリコさん? あっ、やっぱりマリコさんだ!」と言って歓迎してくれたので、私の不安は消えました。初訪問では、先生方の指導を受けながら交流ができて、安心して子どもたちと遊べるようになりました。

実は、子どもたちとの交流は、浦添市に来てから人生で初体験のひとつです。前任者との引継ぎをしているとき、「子どもたちとの交流も多いよ」と言われ、それまで親戚以外の子どもとの関わりがほとんどなく、子どもとの接し方もはっきりわからなかったのが、学校訪問でどうやって交流を進めればいいのか、不安を感じていたものでした。

初めての幼稚園訪問から2年ほど経った今、浦添市にあるほとんどの幼稚園と児童センターを回ることができました。7月には浦添市から離れるので、それまでに子どもたちととっても楽しい交流がしたいです!

A Place for Cultural Exchange

It's one of my duties as a Coordinator for International Relations to carry out a program known as "Hanging out with Mariko" (Mariko to asobou). As a part of this program, I visit municipal kindergartens and childcare facilities and introduce children to American culture or teach them basic English phrases. The program varies depending on the season. At the beginning of the year it could include New Year games, in the summer I take part in collecting cicadas, and in the fall I'll talk about Halloween or Christmas.

I felt a bit anxious the very first time I visited a kindergarten for work, thinking, "they probably can't tell that I'm half Japanese and can speak Japanese just by looking at me...I hope I don't startle them too much." But, after actually going to the kindergarten, children about 4-5 years old gathered around me with smiles and a look of interest on their faces, asking, "are you Mariko-san? Oh, you are!" Their welcoming gestures helped melt away the uneasiness I was feeling. I received guidance from teachers at my first kindergarten visit and felt relieved as I spent time with the children.

To tell you the truth, my first time truly interacting with children was after I moved to Urasoe. My predecessor had told me that I would be spending quite a bit of time with children, and until then I had only really interacted with my relatives' children. I had no idea how to act around children at school visits and was worried.

It's been nearly two years since my first kindergarten visit, and I have now gone to almost all of the kindergartens and childcare facilities in Urasoe. I'll be leaving the city in July and until then, I hope to continue to enjoy my time with the children here!



てだっ子 STUDIO スタジオ



たいら よういちろう
平良 陽一郎ちゃん(1歳) 経塚在



かよう りゅうび
嘉陽 琉煌ちゃん(0歳) 城間在



たいら ゆうき あやか
平良 優貴ちゃん(3歳)・彩夏ちゃん(0歳) 西原在

「てだっ子STUDIO」写真募集

●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
窓口へ直接提出も可。集合写真は不可。
※被写体の子どもの氏名(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)
一言コメントの記入を忘れずに!

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎876-1234(内線2613・2614)
E-mail: kokusai@city.urasoe.lg.jp

ハイサイ こちら市長室!

「二人じゃない」
フランスの経済学者ト
マ・ピケティ氏の著書「21
世紀の資本」が話題で
す。内容を要約すれば
「資本主義経済の下では
富める者は更に富み続け
るので、格差の拡大を防
ぐために手を打つべきだ
」と言うことらしい。ピケ
ティ氏の主張が全て私た
ち日本社会に合致する
とは思いませんが、確かに
子どもたちの教育への影
響については考えなくて
はなりません。親の経済
格差がそのまま子ども達
の教育格差に繋がるよう
なら、貧困の連鎖が世代
にわたって発生すること
にもなりかねないので、
行政としても手をこまね
いて見るだけではい
けないと思うからです。
この4月から生活困窮
者自立支援法が施行さ
れます。私たちの浦添市
でも市役所の一階に「自立
サポートセンター」でこ
未来」という窓口が開設
されます。そこでは、生活
や仕事のことでお困りの

方に対して専門のスタッ
フが話を聴き、一人ひと
りの状況に応じて相談や就
労を含めた支援を行います。
す。例えば、仕事を解雇
され家賃の支払いが出来
なくなったり、心や身
体の病気になるなど働けな
くなったが周囲に頼る人
がいない方などへ支援を
行い、自立に向けて一緒に
考えていきたいと思います。
この「てだこ未来」では、
生活に困っているの
子どもを塾へ行かせること
ができない、などの相談
にも応じ、学習支援や子
どもの居場所づくり事業
の案内も行い、安心して
育児や教育ができる環境
を整えます。
もちろん「市役所が何
でも解決できる」という
わけでもありませんが、
自己責任でもなく、他者
依存でもない、市民と行
政がお互いの役割を確認
しながら、問題解決に向
けた歩みを共に始めま
しょう。そのためには、ま
ずはあなたが声を上げる

市長とゆんたくランチのお知らせ

日時:4月28日(火)12時~13時
場所:市役所9階展望ロビー
※お弁当と飲物は各自でご準備ください



問い合わせ
国際交流課
(内線2614)



▲学習支援教室の様子

ことが大切です。
一人で悩まずに勇気を
持つてご相談ください。



浦添市長
松本哲治

文化課発信 うあむー ありんくりん 第1回

～尚瀬(しょうこう)王邸宅の礎石～

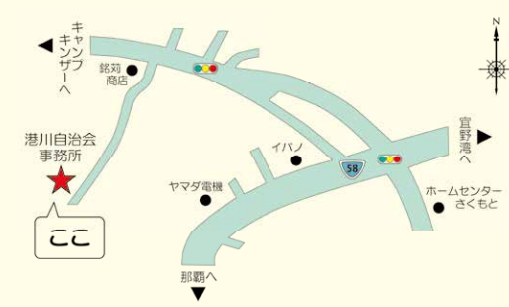
皆さんこんにちは。4月から始まったこのコーナーでは浦添市内の文化財や文化振興イベントに関すること、その時々旬なネタなどをざっくばらんに紹介していきます。何が飛び出すかわからないおもちゃ箱のようなコーナーになると思いますが、応援よろしくお願いします!

さて、記念すべき第1回目は「尚瀬(しょうこう)王邸宅の礎石」です。尚瀬王(在位1804~34)は第二尚氏第十七代の国王で、在位中に病を発症し浦添の城間(現・港川地内)で隠居生活を送りました。坊主頭であったことから坊主(ぼうじ)御主(うすう)とも呼ばれています。尚瀬王には、野菜作りの名人だったとか25人も子供がいたとか、面白いエピソードがたくさん残されており、戦前は屋敷の跡地に礎石(柱を立てる基礎となる石)が残っていたそうです。今の屋敷跡には何も残っていませんが、礎石を保管されていた方から平成19年に寄贈いただき、現在は港川自治会事務所敷地に展示しています。

この礎石は尚瀬王が実際に浦添に住んでいたことを示し、伝承と現代をつなぐ貴重な物証であることから、ぜひ現地でご覧になっていたきたいと思います。ではまた来月!



▲尚瀬(しょうこう)王邸宅の礎石



▲「尚瀬(しょうこう)王邸宅の礎石」を展示している場所



尚瀬王

問い合わせ 文化課 内線6214